香川県農業試験場研究報告　第 45(1994 年 3 月)　91-92

短報　イチゴ炭そ病に関する研究

第 2 報　土壌被覆および土壌消毒の効果

楠幹生、三浦靖、十河和博、都崎芳久*

イチゴ炭そ病は罹病性品種「女峰」の導入にともなって多発するようになり,著しい苗不足や本圃での急激な萎ちょう・枯死によって大きな被害を被っている。本病はいったん発生すると,薬剤のみの防除ではなかなか抑えきれたいため,耕種防除を含めた総合管理が重要であると考えられる。

石川ら [1)]により,本病の土壌伝染については,子のう殻を形成した罹病残渣が土壌中に残り越冬し,翌年の第一次伝染源となることが報告されている。そこで,本試験では,土壌伝染を防止するため,育苗床の床面被覆および土壌消毒の効果について試験を行い,若干の知見がえられたので,ここに報告する。

本稿の御校閲を賜った農林水産省野菜・茶業試験場の手塚信夫博士に厚く御礼申上げる。